# 市民に喜ばれる仕事がしたい

# 人とのふれあいを大切にする ごみ収集をめざして

吹田市職労
現業合同支部

働きがいのある職場をめざして、がんばっています。右から青島貴信さん、倉本雅志さん、松尾直さん

吹田市で家庭ごみを収集する職員は、カラスよけ用のネットをたたんで置いたり、資源ごみを入れるコンテナをたたんで返却しています。広げたままのネットが風で道路の真ん中まで飛んでしまったり、高齢者が重いコンテナを持って帰る姿を目にすることが多く、「少しでも役に立てれば…」と職員が率先してとりくんだのがきっかけでした。最初は「そこまでやるのは、いきすぎだ」という声もありましたが、「市民に役立つ職員になろう」「民間委託から職場を守るためにも」と、ねばり強く話し合いを進め、職場の合意を得て実施。始めた日から「本当に助かる」「心配りに感謝しています」と市民からお礼の電話やハガキが届きました。「コンテナは若い人が運んでも重いんです。市民から、ありがとうと声をかけられるのが、うれしくて…」と支部執行委員の松尾直さんは語ります。

ごみ収集用のコンテナをたたんで返却
「ありがとう」と笑顔が返ってきます

## 市民と市役所つなぐ「ふれあい収集」

吹田市が直営でゴミを収集している千里ニュータウン地区は、集合住宅が多く、住民の高齢化が進んでいます。ゴミを収集所まで運ぶのに苦労しているお年寄りの姿をよく見かけます。「お年寄りや障害を持った人に何かできることはないか」と組合は議論し、当局に「ふれあい収集」の実施を要求することにしました。

「ふれあい収集」とは、ゴミ出しが困難な市民の自宅を職員が訪問し、ゴミ袋を直接収集する業務のこと。「今日は具合いはどうですか？」「なにか変わったことがありませんか？」と声をかけて安否を確認し、市役所と市民をつなぐ役割も果たしなりました」と支部書記長の青島さんは言います。「直営でしかできない仕事があります。市民から『あの職場をなくさないで』と言ってもらえる職場にしたい」と倉本さん。ごみ収集の民間委託を拡大しようとする当局に対して、「市民に役立つ仕事」を対案で示して、闘いをすすめています。

清掃職員は子どもたちに大人気。
パッカー車に自分でごみを入れたくて、
いつもお母さんと待っている子どもも

## 直営でしかできない仕事を

昨年夏に組合が市内の4万世帯に「ふれあい収集の実施」を提案するアンケートハガキつきのビラを配布したところ、「ぜひ、やってほしい」という声が多数寄せられました。人員増に難色を示す当局に対して組合は、職員の定数やごみ収集車の台数を増やさずに「ふれあい収集」を実施する案を提案。収集車の1台を民間委託している地域に「ふれあい収集専用車」として配車し、市内全域で実施をするという内容です。「最初は『無理だ』と言っていた当局も、市民の声や私たちの運動に押されて、必要性を認めるようになります。職場で、長年組合役員を務めてきた倉本雅志さんは、前橋市など先進的に実施している自治体に視察にでかけ、「ふれあい収集」が市民に喜ばれ、清掃労働者の「働きがい」にもなっていることを実感。「吹田でもやろう！」と職場に提案し、7年も前から実施に向けて奮闘してきました。

# 住民と自治体労働者の利益を守る初心をつらぬいて

大阪自治労連執行委員長　谷　真琴

## 大阪自治労連結成20周年にあたって――

大阪自治労連は1989年1月14日に結成され、今年で20周年を迎えました。

結成当時、日米安保条約と自衛隊の容認、日本共産党排除を内容とする「社公合意」が結ばれ、社会党が「歴史的な右転落」を完成させたのと連動して、労働戦線の右翼的再編が急浮上していました。それは、平和と国民生活擁護の先頭に立つべき労働組合運動を、反共主義と体制擁護を担うものへと変質させるものでした。

大阪府職労、衛都連など大阪のたたかう自治体労働組合は、統一労組懇自治体部会とともに、まともな自治体労働運動の前進のために努力を重ねてきましたが、総評が解散して反共と労使一体の「連合」に吸収合併され、自治労も「行革に反対と言ったことはない」と行革推進へ右転落を遂げたもとで「日本の労働運動と自治体労働運動の歴史的前進を切り開く」（結成宣言）ために、自治労と決別して新しい自治体産別地方組織である大阪自治労連（当時は「自治体労働組合大阪連絡協議会」）を結成しました。自治労からの激しい反共・分裂攻撃にたじろがず、常に全国を励ます役割を担った先輩OBを含む各単組のゆるぎない決意と、守口・東大阪などの全組合員投票など、組合員のみなさんの徹底した職場討議による確固とした選択が、結成の大きな力となりました。

以来20年間、労働組合の初歩的原則（「資本からの独立」「政党からの独立」「一致する要求にもとずく行動の統一」）を堅持し、たたかうナショナルセンター・全労連や大阪労連の前進に貢献するとともに、大阪市労組など新たな仲間を迎え、「かけこみ寺」ともいえる公務公共一般労組を結成するなど、「反連合」「反自治労」という狭い視野でなく、すべての自治体・公務公共労働者の団結の母胎として前進してきました。住民と自治体労働者の利益を守り、地方自治の民主的発展をめざす初心をつらぬき、決してブレることなく、たたかい続けてきた20年間だったと自負しています。

こうした奮闘がいま「労働組合の出番」の情勢を切り開いています。「派遣・非正規切り」に抗して労働者が自ら起ち上がり、一昨年の参議院選挙以降、国民の世論と運動が政治を動かし始めています。

労働組合運動が国民的注目と期待を集めている時、それにこたえて憲法と地方自治が息づく地域と自治体、国民・労働者が希望を持てる社会と政治の確立をめざして、大阪自治労連は確固とした歩みを続けていく決意です。

**今月のキーワード**

子ども無保険問題

保護者が国民健康保険の保険料を滞納しているために保険証をとりあげられ、「無保険」状態になった子ども（中学生以下）が、厚生労働省の調査で全国に3万3000人もいることがわかっています。この背景には高すぎる国保料にあります。滞納世帯でも中学生以下の子どもには6ヶ月の短期保険証を交付する内容の改正案が国会で可決されています。

**今月のキーワード**

天然繊維の国際年

2009年は国連の「国際天然繊維年」。天然繊維とは綿、麻、ケナフ、絹、羊毛、アンゴラなど植物・動物に由来する繊維のこと。多くの発展途上国で基幹産業になっています。合成繊維に押され衰退する天然繊維産業を発展させるため、生産者間の国際協力を呼びかけます。各国でも会議、展示会、ファッションショーが計画されています。